

学校教育目標 新しい知を拓き、ともに生きる豊かな社会を創るため、主体的に学ぶ、人間性豊かな「南古谷っ子」を育成する
目指す学校像 みんなが みんなを 大切にする学校
南古谷小学校5つのじまん あいさつ ことば なかよし 読書 歌声

川越市立南古谷小学校



学校だより

なのはな

かしこく ゆたかに たくましく

令和7年1月8日発行

健康や安全を資源として

校長 馬場 雅史

令和7年、新しい年が始まりました。保護者、地域の皆様には、何卒、本年も本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年、2025年、21世紀が始まって四半世紀。年末年始のテレビ番組で2001年頃の映像が映し出されると、現在との違いに技術の進歩を感じます。当時、小説や漫画、アニメ等で描かれていた未来が少しずつ現実のモノとなって、今、目の前に出現している状況に改めてワクワクしました。南古谷小学校の子供たちが思い描く未来の世界は、実現可能なのだと思います。我々大人は、子供たちに「2050年の世界の人々が幸せを感じられるにはどのような未来になっていけばよいのか」という視点をもてるように働きかけていくことが必要ではないかと感じました。

一方、今年、十二支に視点を当てれば、今年、巳（へび）年。私見で申せば、へびは物語等では、どちらかといえば「嫌われ者」「不気味な者」としてえがかれることが多い生き物ではないかと感じます。その思いとは別に私が気になっていたのは、世界保健機関（WHO）のシンボルマークに「杖に巻き付いたへび」がえがかれていたことです。調べてみると、杖は古代ギリシャの医術の神アスクレピオスのもの。へびは脱皮が再生や回復につながることから、医療のシンボルになったとのこと。洋の東西を問わず、へびを再生や回復、神秘、知恵、そして変容を象徴する生き物としての意味をもたせ、古くから世界中で崇めてきた発想は興味深く思います。私自身も一皮むけてさらに成長したいです。

ところで、昨年末に体調を崩し改めて自身の健康について考える機会を得ました。体調を戻しつつ様々なメディアで情報収集や整理を行っている中で「ヘルスプロモーション」という言葉に触れました。文部科学省のHPでは、以下のように取り上げられています。

ヘルスプロモーションは、1986年、WHOがカナダのオタワで開催した第1回ヘルスプロモーション会議の中で示された新しい考え方です。これに関する宣言文がまとめられたオタワ憲章の中で、ヘルスプロモーションとは「人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスである」と定義されています。続いて宣言文の中では、健康は生きる目的ではなくて毎日の生活のための資源であること、単なる肉体的な能力以上の積極的な概念であることが述べられています。（下線筆者）

病気を治す健康からつくる健康へという健康観の変換、健康は目的ではなく、自己実現や生きがい、QOL（Quality of Life：人生・生活の質）を高めるための個人的・社会的資源であるという見方・考え方については、遅まきながらよい視点を獲得できたと思っています。

南古谷小学校に関わる子供も大人も、学んだり、生活したり、そこで働いたりする環境をより健康的にするための方策を、職員との対話を通して考えていきたいです。そして、令和6年度の取組を次年度に向けて検討、改善し、次年度の計画を組み立て、引き継いでいくこの時期こそ、健康や安全は資源であるという予防・防止の視点で振り返りつつ、学習環境を整えていきたいです。